

開催地名	福井県 越前市
開催日時	令和6年8月26日(月)19:00～20:30
開催場所	越前市文化センター
語り部	川島 孝(広島県広島市)
参加者	越前市内の自主防災組織(区長、自警消防隊)等 359名
開催経緯	当市では、自主防災組織が組織化された当時から役員等が代わっており、組織の意義や活動について組織内でうまく引き継がれていない地域もあり、地域によって活動や意識に差がある。 また、避難行動要支援者の個別避難計画作成において、支援者の確保が課題となっており、自主防災組織全体で避難支援できるよう組織の連絡体制や安否確認方法の整備が必要と考えているものの、現状はそこまで至っていない組織が多く、各自主防災組織が共助の意識の高めるための参考としたい。
内容	■ はじめに 講演者の川島孝氏は、広島市東区の早稲田学区で自主防災や町内会を中心に地域活動に参加している。早稲田学区自主防災連絡協議会(通称:わせだ自主防)では、事務局長を務め、地域防災活動の中心的な役割を果たしてきた。 早稲田学区は、広島駅から車で約10分の距離に位置し、広島市の中心部に近い住宅地として発展した地域であり、世帯数は約2,600戸で約6,000人の住民が生活している。自然に囲まれた環境の一方で、約6割が土砂災害警戒区域内に指定されている。こうした地形的な背景から、防災対策の必要性が高く、平成26年の広島土砂災害を機に地域防災活動が本格化した。 ■ わせだ防災プランによるまちづくり 早稲田学区では、平成30年7月の西日本豪雨で土砂災害が発生し、被災を経験した。この災害において、地域の防災活動における様々な課題が明らかになった。この課題を解決するため、地域における防災活動を誰もが共有できる計画が必要であり、それを地区防災計画としてまとめ、この計画の実践ガイドとして“わせだ防災プラン”を作成したことを紹介した。また、このプランによって進められている防災まちづくりの実践内容として、広報紙やイベント、ホームページ等での情報発信による意識啓発活動、様々な防災訓練による地域住民・自主防災組織の両方のスキルアップ活動、要配慮者を支援するための取り組みなどが紹介された。 そして、これらの活動を実施する中で、川島氏は「自分たちが楽しめる活動を取り入れ、参加者が新たな気づきを得られるよう活動内容を少しずつでも変化させることなどにより、持続性の高い活動を心掛けている」と活動において工夫している点を説明した。 ■ わせだ防災プランの作成手順 わせだ防災プラン(早稲田学区地区防災計画)は、①地区の特徴をまち歩きなどで確認、②地区の防災上の課題を抽出、③防災プランの体制作り、④課題への対応策を検討、⑤活動の内容・目標を設定する、⑥防災プランをまとめて作成、という手順で作成されたことを説明した。 そして、プランの作成においては、専門家のアドバイスを受けたり、市と相談したりすることも有効であることを紹介した。 そして、計画を作るためのポイントとして「プランを作ることも大切だが、プランを作る過程でできるだけ多くの関係者が参加し協力することが重要で、そのうえで最優先に解決すべき課題を決めること、活動を振りかえる機会を作って関係者がつないでいくことが、地域の防災力を高める」と川島氏は述べた。 ■ 地域防災プラットフォームによる防災ネットワークづくり 早稲田学区では、学区内の関係者だけでなく、防災活動に関係する様々な関係者が集まり、防災について意見交換できる場として「早稲田学区地域防災プラットフォーム」を開催している。 このプラットフォームには、通常は地域活動に参加する機会のない、警察・医療機関・メディア・NPO法人など、災害時には相互に協力が必要となる関係者が集まり、お互いの活動状況や時には共通するテーマなどについて意見交換、情報交換することで“顔の見える”関係づくりをしている。 この地域防災プラットフォームでできたネットワークは、従来の自治会などの地縁組織が中心

となるコミュニティとは異なる、新たな防災コミュニティの受け皿となる可能性があり、今後も連携の強化と持続的なネットワークづくりに向けて、より良い関係作りが必要である。

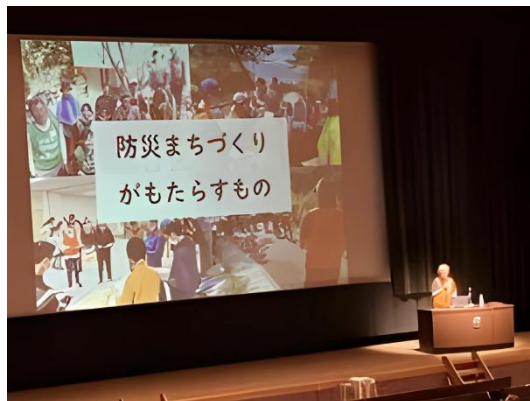
■次世代の人材育成

将来的に防災まちづくりを定着させていくためには、次世代の人材育成が必要不可欠である。そこで、早稲田学区では地域参加型で子どもの防災教育に取り組んでいる。わせだ防災プランでは、子どもの防災教育ステップアップとして、ステップ1:防災体験、ステップ2:防災学習、ステップ3:防災実践とテーマを決め、幼児から中学生まで段階的に防災に触れ、学び、体験することで感性を養う取り組みを進めている。

特に力を入れて活動しているのは、中学校のコミュニティ・スクールの取り組みとして実施している3学年全てでの防災学習と、将来の地域リーダーとなることも期待しながら地域活動の中で中学生などのジュニア防災リーダーが活動し専門的な知識や技術を習得する養成である。

■ まとめ

川島氏は、「早稲田学区では、防災を特別なものとせず、日常の文化として根付かせることを目的として“日常に＋(プラス)防災を”というキャッチフレーズで活動を展開している。この活動を定着させていくことが、今、活動をしている我々の世代の責務だと思っている」と述べた。そして、防災まちづくりを進めることで、地域における防災の課題解決が図れ、その活動の中で新たな結びつきが生まれる。その過程の中で、従来のコミュニティにはできなかった“防災”という誰にも共通するテーマで地域の関係者をつなぐネットワークが作られ、新たな地域コミュニティができることを実感している。



開催地より

大きな災害を経験した地域ということで、自主防災組織の防災に対する意識が非常に高いと感じた。市から参加者に対するアンケートの中でも今回の講演を受けて、可能な限り取り入れていきたいという感想があり、改めて共助について考える良いきっかけとなったと思う。